「スマートシティさいたま」実行計画（概要版）

市民のウェルビーイングな暮らしを実現するため、市民の移動サービスとして定着してきた「シェア型マルチモビリティ事業」や「3D都市モデル」等の官民データを活用したスマートシティサービスの更なるシンカ（進化・深化・真価）を図るとともに、データ利活用体制の整備やデータに基づく施策の評価・検討体制の構築により、都市経営を支える「シクミ」を構築する。

目標（KPI）

成果KPI	現況値	目標値
交通利便性への満足度	63.5%（R6）	67.0%
自動車分担率(*)	22.7%	20.0%
CO2削減効果（年間削減量）	823t-CO2/年	1,000t-CO2/年
スマートシティサービスによる経済効果(**)	1.01億円/年*	1.25億円/年*
健康増進効果（身体活動量）	21.4kcal/日	23kcal/日

*さいたま市地域公共交通網形成計画／第5回東京都市圏パーソントリップ調査における自動車分担率に本実証で得られた「1日あたり自動車交通削減トリップ数」を加味して算定、**「スマートシティサービスによる経済効果」の現状地・目標値は現時点では仮算定、取組の検討時に算定手法とともに再設定

取組概要

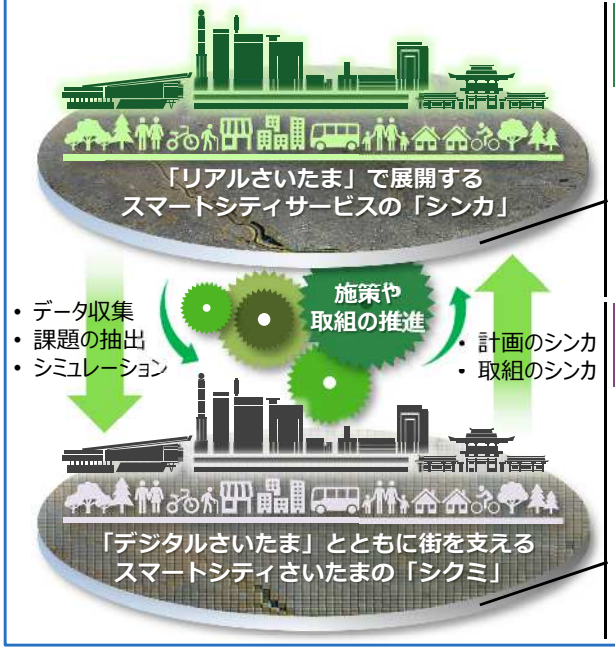
市民のウェルビーイングな暮らしを実現する「スマートシティさいたま」

モビリティサービスによりだれもが移動しやすく、「人にも環境にもやさしい」ウォーカブルな都市空間・環境を構築

シンカした持続可能なスマートシティサービスを市内へ拡充・展開

① スマートシティサービスの更なる「シンカ」の推進
② スマートシティや都市経営を支える「シクミ」の構築

本事業全体の概要



スマートシティサービスの更なる「シンカ」の推進（施策①）

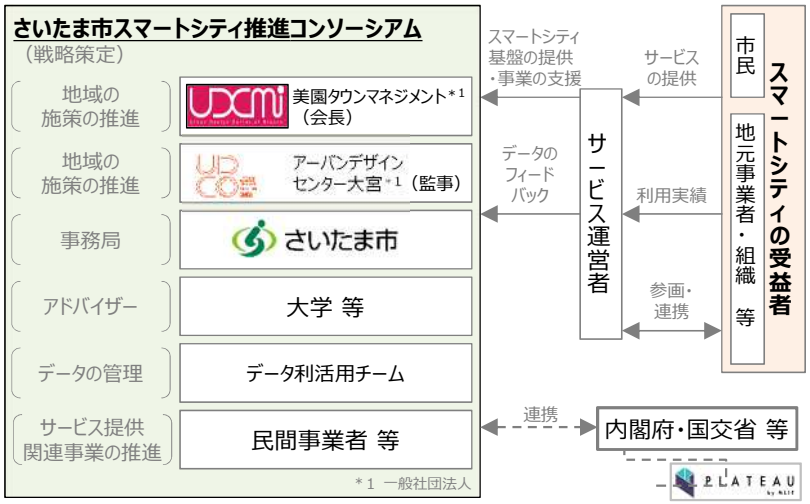
- シェア型マルチモビリティの本格実施
- 交通結節機能の強化や交通マネジメントの拡充
- 「さいたま市みんなのアプリ」を活用したサービスの実施
- 公民学による3D都市モデル等地理空間情報を活用した取組・サービスの展開

スマートシティや都市経営を支える「シクミ」の構築（施策②）

- スマートシティの取組を評価する仕組みの構築（EBPMの活用等）
- 社会実装を実現するための運営体制の構築（持続可能なビジネスモデルや体制構築等）
- データ利活用ルールや管理体制の整備（データガバナンスやデータマネジメント等の構築）
- シティプロモーションの推進

運営体制

- 「スマートシティさいたま」は、公民学の連携による「さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム」が推進主体となり、各参画者による連携と価値の共有を図りながら推進し目標達成を目指す。



スケジュール